

特集

新潟県厚生連 新人看護師の現任教育について

I. 緒言にかえて

けいなん総合病院看護部；看護師

くろさききわこ
黒崎貴和子

近年の医療技術の発展、患者の権利意識の高揚、人権の尊重（倫理）などを背景に、患者様にとって安心で安全な臨床実践能力が、より強く看護師に求められるようになりました。そして、それらを背景に、看護教育はますます高度化しています。しかしながら、教育現場では、医療機関の医療安全管理体制の強化や患者、家族の意識の変化等により、実習の範囲や機会が限定される傾向にあり、新人の育成は資格取得後の現場に託される現状があります。卒業を控えた学生は、より充実した現任教育が受けられる病院へと就職を決め、選択基準は、「卒業後の教育が充実している」かどうかであります。

今、看護職員の継続教育の成否は看護師の定着率にも影響しかねない状況にあります。

当厚生連では、15病院でそれぞれ独自の現任教育計画で看護師の育成に当たってきましたが、課題もありました。多くは、どちらかという新人教育に力を入れ、いわゆる中堅の能力開発は個人の力量に委ねていた感があります。しかし、新人教育に力を注ぎ自立させたら、その後も目標を持ってステップアップできるような支援も必要です。せっかく育てたのに…と

いう嘆きを口にしない為にも。教育ニーズ調査では、3～4年目の看護師達が目標を失っているとの報告があります。与えられる教育に慣れてしまい、次なる目標が見えない看護師達に、もはや経年別教育だけでは達成感や満足感は期待できません。今回、「病院機能評価」をきっかけにし段階別の教育計画も考慮した、新潟県厚生連看護部の教育体系を作成しました。

従来 of 技術中心の職場内教育（OJT）から、事故防止・感染防止・看護倫理・個人情報保護・災害看護など、新人にも要求される知識・技術も加味したクリニカルラダー（臨床実践能力習熟段階）を是非、活用し新人の時から主体的にラダーに取り組まれる事を願っています（厚生労働省「新人看護職員の臨床実践能力の向上に関する検討会」報告書参照）。

今回、各病院のプリセプター（先輩看護師）よりプリセプティー（新人看護師）とのかかわり（プリセプターシップ）について投稿させていただきました。それぞれ悩みながらも、今後の厚生連看護部を担う人材育成に努力している姿がうかがえると思います。

II. プリセプターとしてのかかわり

II-1. プリセプターとして学んだこと

糸魚川総合病院看護部；看護師

しらさわあやこ
白澤綾子

私が新人の頃は、社会人として環境に慣れることが難しく病棟のスタッフとの人間関係や患者様への接し方など、さまざまな場面で緊張の連続でした。看護学生の時と異なり臨床での看護は、看護師としての責任を担うことを重く感じていました。一つ一つ看護行為を行うごとに自分が納得できるまでは何度もプリセプターより指導をしてもらっていました。また、失敗したときは一緒に原因を追究し、振り返りを行いました。

た。私がプリセプターより学んだことは、「指導してくれた先輩方々への感謝の気持ちを忘れないこと。頑張ることは、今、力にならなくてもいつのまにか身につけていくものである。そして、誰かが見ていてくれるものである。」

私はその学びを生かしながら自分の看護観に向かって患者様に接するように心がけたいと感じました。そ

の私がプリセプターとして新人を指導する立場となり難しく感じたことは、新人との人間関係を築くことであります。新人とのコミュニケーションを多くはかることにより、お互いの信頼関係を深めることが重要と考えました。しかし、一人一人個性が違い性格を把握するまでどのように接していけば良いのか悩むことが多くありました。指導するタイミングも難しく感じその都度根気よく指導することが大切と思えるだけ声がけを多くしました。出来たところは誉めることによって、自信を持つことが出来、次のステップへとつながります。更にひとり立ちするために見守る姿勢も

大切です。そして、分からない時はいつでも相談にのれる体制を整えておくことも重要であります。

私は今までプリセプターとして、二人の新人の指導をしてきました。プリセプターとして指導しながら、自分自身も学ぶことが多く新人と共に成長していると実感しています。プリセプターの関わりをとおして新人の性格を把握し、それぞれの性格を考慮しながら指導することが大切であると学びました。自分が新人であった時に学んだことを忘れずに今後もプリセプターとして努力していきたいと考えています。

Ⅱ-2. プリセプターとしてのかかわりを通して

けいなん総合病院看護部；看護師

たけの うち ゆ み
竹ノ内由美

4月1日、初々しい白衣の中に、希望と不安に満ちた新人看護師達の瞳が印象的だったのを思い出します。3月末にプリセプターに任命され、私自身が新人看護師であった頃を思い出しました。しかし、5年目の私はこれからプリセプティとどのように関わったらいのか不安がありました。新人が入職する前に行われた院内のプリセプターシップ研修会でプリセプターとしての準備教育を受けました。今回、私がプリセプターとして、実際に新人看護師と向かいあってからの半年を振り返ってみました。

4月では、やはり理想と現実、または実習の場と勤務現場の違いから起きてくる衝撃（リアリティショック）が見受けられました。このため、プリセプティとの関わりを増やし、精神面での関わりを密にしていきました。また、プリセプティには日々の振り返りと共に、自己学習の必要性を伝えてきました。学習した内容は新人ノートにまとめられ、どのスタッフからも指導が受けられるようにしました。当院の新人教育計画は厚生連看護部教育体系のクリニカルラダー（臨床実践能力評価表）に則った卒後1年目の目標にそって、2ヶ月毎の行動目標を示し評価しています。そして、評価結果はチーム会に報告し、プリセプ

ティをチーム全体で支え、育ててもらうようスタッフに協力をお願いしています。

具体的には、チーム目標に新人育成の項目を盛り込んでもらい、チーム会のたびに新人育成について話し合われるような仕組みを作ってもらっています。

また、プリセプターはプリセプターシップの振り返りを年2回、評価表を用い自己評価を行っています。プリセプターとして、力量の無さを感じ落ち込む事もありますが、「チーム全体で育てる」というプリセプターのサポート体制にも助けられています。

病棟スタッフには、プリセプティの達成目標を明確にし、スタッフにもプリセプティとの関わりをとるよう心がけてもらいました。

プリセプター1年目の私が、プリセプティと共に悩み苦しみながらもここまでこれたのは、病棟師長はじめチーム全体の協力と支えがあったことと思っています。今、新人達は、自ら定期的に“新人会”を開き、情報交換を行っています。主体的に行動し、学習する姿を頼もしく感じています。私自身もプリセプターを通して成長できるよう努力していきたいと思っています。

Ⅱ-3. 新人教育において大切なこと —プリセプターの経験をとおして—

上越総合病院看護部；看護師

き な み かづ み
木南 和美

当院では昨年度から多くの新人が就職しました。それに伴い各病棟、外来のプリセプターが集まり、月1回会議を行い、現状報告、各個人の行動目標の確

認、業務チェックリストの確認を行い、今年度からは、新人教育が独立し、クリニカルラダーに沿い、毎月1回の集合教育の計画立案から実施を行っていま

す。

その他に私が所属の病棟では病棟全体で各看護師が職場内教育として業務手順の指導やその他に新人個別に「新人ノート」を作り、毎日の業務の振り返りを書いてもらい、その日の新人担当者が疑問に答えたり、励ましのコメントを記入しています。そのノートは各個人のも物ですが、皆が見える所にノートを設置して見てもらっています。そうする事により、病棟全体で新人を育てる意識の他にプリセプターの負担の軽減を図っています。新人、プリセプター、アソシエイトで月1回集まり、今月の振り返りや来月の目標を話し合っています。この場は決して『個人の差』を見るのではなく、『安らげる・悩みが言える場』になれるように和やかに会議を行っています。

私が新人教育に関わり4年目になります。この4年間で新人教育の大切さが学べました。

新人教育に大切なことは『心を通じ合わせる』事ではないかと思えます。新人と担当者の心の溝が開いていたら関係は上手く行きません。看護技術など業務も大切ですが、患者様やスタッフ同士のコミュニケーションが私は新人教育において大切なことではないかと思っています。新人のストレス解消などのメンタルケアも心がけるように接しています。新人指導は社会人として看護師としての第1歩です。その土台作りがしっかりできるように時には厳しく、時には優しく接する・・・これが『心を通わせる』ではないかと思はれています。

しかし逆に学ぶ事も多いです。言葉使いや接遇など私が忘れてしまった「初心」を教えてください。この4年間は私自身に成長できた時間です。今後も各個人、1人の看護師として手本や頼れる存在になっていきたいと思っています。

II-4. 新人看護師の現任教育について —プリセプターとしてのかかわりを通して—

刈羽郡総合病院看護部；看護師

南雲 綾子

私がプリセプターを任されることに決まったとき、まず一番考えたのが、果たして私に勤まるのだろうかということでした。なぜなら、三年間の学生生活を晴れて看護師として働き始める新人看護師にとって、大きな夢や希望を抱く一方、その気持ちに比例して大きな不安ものしかかってくるからでした。その不安をいかに軽減させていくことができるのか、私にはとても大役に思えてきました。

そんな自分自身にも不安を抱いた状態で4月からの勤務が始まりましたが、実際にプリセプターとして関わっていくうちに、抱いていた不安は少しずつ軽減していき、その一方でなぜプリセプターという存在が必要になるのか、その必要性を実感していくことができるようになってきました。

自分がプリセプティ時代にも感じたことですが、実際の職場では学生時代に学べないことがたくさんあります。知識や技術については教科書やマニュアル本に載っていますが、何人もの患者さんと対応していくなかで、教科書通りにいかないことが多かったり、職場での人間関係など様々な不安や悩みが生じてきます。そんな時に、不安を聞いてくれる、一緒に考えてくれ

る存在がいるというのは、プリセプティにとって心強いのではないのでしょうか。プリセプターというと、新人看護師に指導しなくてはならない、全て教え込まなくてはならないというイメージを持ってしまいがちですが、共に考え成長していく存在がいてくれることで、プリセプティの不安の軽減を図っていくことができ、一步一步前進していくことができるのだと思います。プリセプティと関わっていくうちに、そう考えられるようになり、自分にとってプリセプターというものが負担に感じなくなってきました。また、周りのスタッフが協力して一緒に育てていこうとサポートしてくれていることも、このように考えられるようになった一因だと思います。

現在は、プリセプティの存在により、自分自身が新たに気付かされることが多く、一緒に成長していくチャンスを逃さないようにしなくてはと感じています。まだまだお互い成長途中ではありますが、少しずつ不安を軽減していき、伸び伸びと仕事に打ち込めプリセプティが自分らしい看護観を持てるようサポートしていけたらと思っています。

II-5. プリセプターとしてのかかわりを通して

中条第二病院看護部；看護師

やま だ か おり
山田 香織

プリセプターの任命を受けて、新人にしっかり教えずなくてはいけないという責任感と自分に教えることができるのだろうかという不安な気持ちを持ちました。しかし第一回目のプリセプター会議で、プリセプターとは新人を教育するだけでなく共に学びあう「共育」であることを教えていただきました。自分も一緒に勉強して二人で成長できれば良いという思いに変わりました。実際新人の指導にあたるため基本に振り返ってみると、知識不足であったり間違った知識を習得してしまったりしていました。自分自身の知識や技術の評価する良い機会になりました。

新人と向き合うときには自分の新人時代を思い出すようにしてきました。新しい環境と人間関係は緊張の連続でした。知っていてもとっさにどう行動してよいか分からなくなること多いと思います。これはこの前教えてあげたから期待通りに動いて欲しいと思って最初と思うようにいかないと思います。一人で患者様の所へ行くのは不安で何度も確認していました。自

分の新人時代はそうでした。しかし担当のプリセプティは学生時代の実習での経験が多く、「わかります。」「したことがあります。」「できます。」と返事が戻ってくるが多く自分とは違うと思ひ戸惑いました。その反面ゆっくり話す機会を作ると不安で仕方ないという思いが表出されるため、不安なところ知識の未熟なところをサポートしてあげられるように、いつでも声をかけあいやすい雰囲気作りを心がけてきました。また直接指導してもらい習得していただくだけでなく、患者様とのコミュニケーション技術などは先輩看護師が患者様と直接接しているのを見て学んでいくこともあると思います。言葉遣い、挨拶、行動など手本にならなければいけないことも多くありました。手本になったり、指導するにはまず自分が勉強することが必要でした。また忘れていた基本的なことを不意に質問されて一緒に本を開いて勉強することもありました。この一年は新人と一緒に学びあえ自分も成長することができた有意義な年であったと思います。

II-6. 共に学び成長する

魚沼病院看護部；看護師

うみ はつ けん
海發 健

私は、外科・整形外科・小児科の混合病棟に勤務しています。今年より一般病棟に勤務移動となり、整形外科チームに配属されてようやく一般病棟の勤務にも徐々に慣れ始めたと思ったところに、プリセプターの依頼を受け「自分に出来るのだろうか。」と不安に感じました。しかし逆に病棟を移って期間がたっていないために、新しく覚えたことや教わった事をそのまま伝えることができたし、自分が病棟に慣れはじめてミスが多くなるだろうと予想していた時期だったために、自分自身の気も引き締まりました。

また、プリセプティが自分の意見をしっかりと持っていて、それを言葉に出して表現できる人だったために、なるべく新人の意見を尊重して自分の意見を押し付けないように心掛け、必要時にアドバイスを与えられるように、関わりを行いました。4月から6月までは、オリエンテーションを初め見学しながら徐々に病棟に慣れ、6月から9月で他のスタッフと共に看護技術を学びながら、少人数からの受け持ち患者を持ち目標の評価を行っています。プリセプティからは、

学校の実習ではほとんど手技的な事をせずにコミュニケーションや保清程度であったために、看護技術に自信が無いとの言動も聞かれ、自分が学んだときから、学校の教育もずいぶんと変わってきており、そのことを頭において関わっていかなければならないし、目標の立案や評価も行わなければならないと感じました。

今までの関わりを通してプリセプターとして、自分自身プリセプティに対して指導しなければならないという思いが強く肩に力が入りすぎていて、上手くかかわりが出来なかったし、コミュニケーションが取りにくかったのだと感じます。たしかに、新人の教育や指導が必要ではありますが、病棟師長や主任から「新人はプリセプター1人で育てるものでなく、みんなで育てるものだから。」と言ってくれ、チームスタッフみんなが積極的に関わってくれるため、新人と一緒に学んだり悩んだりする事により、自分自身も成長することができているのではと思います。今後も病棟のスタッフの助言を受けつつ、新人と共に学んでいきたいと思っています。

II-7. 新人主体の指導とは —プリセプターとしてのかかわりを通して—

長岡中央総合病院看護部；看護師

おだ ともこ
小田 知子

当院では毎年新人を受け入れています。その新人を育てていく為にプリセプターはもちろん、病棟スタッフや教育委員会、他職種など多くの方々の協力と支援があります。

私は、プリセプターを二年経験させてもらっていますが、この経験の中であらためて考えさせられたことがあります。それは、「新人教育は相手の成長に合わせてすすめる」ということです。

これは、私のプリセプターとしての係わりの反省から出てきたものです。新人に少しでも早く現場に慣れてもらいたい、スタッフの一員となって動けるようになってもらいたいという期待から、「教えること」で頭がいっぱいになってしまい、相手の反応や理解の程度の確認が不十分なまま指導を続けてきたことです。医療の高度化や、質の高い看護が求められる時代においては、本当に教えることはたくさんあります。「教

えること」で自己満足しては本当の新人教育にはなりません。指導や説明をする時に、なぜそうするのか根拠を示し、新人がその意味を理解し納得しているか確認しながらすすめていかなければなりません。それを気付かせてくれたのは、病棟スタッフやプリセプター会議での意見でした。新人の個性や特徴をとらえ、それに合った指導の方法を実践している意見はとても参考になりました。

また、これからは「教える指導」だけではなく、主体的に学んだり考えさせる指導も行っていかなければならないと思います。そのために、自分で目標をあげたり、なりたい看護師像をはっきりさせるなど、自分の考えを言葉で表現させることが必要です。主体的な学びによって、自分の興味があることに気付き、自分に必要と思われる知識を広げていってもらいたいと思います。

II-8. プリセプターとしてのかかわりを通して

栃尾郷病院看護部；看護師

さの の な おみ
佐野奈穂美

今年の春、卒業したてのプリセプティに対し、40歳間近で子持ちの私がプリセプターに抜擢され、正直不安でいっぱいでした。当院のプリセプターの一番の目的は精神面のフォローです。技術に関してはスタッフ全員で指導出来ますが、プリセプターはプリセプティが悩みを打ち明けられるような良き相談者であることが大切です。年齢が離れているだけに私にとっては大きな課題です。

実際、4月から一緒に仕事をしてみて、最初は日勤も夜勤もずっと一緒でした。まだすべてにおいて知らない事だらけのプリセプティ、「最初が肝心」と1つ1つ説明しながら指導していると、プリセプティも覚えることが多いので大変だったと思います。私自身もとても疲れました。正直、プリセプティと離れる時間は安堵しました。このままやっていけるのだろうかという不安がありましたが、プリセプティが徐々に病棟に慣れ、業務を覚えてきばきとこなしている姿を見ると、自分のことのようにとても嬉しくなりました。

最初はどう接したらいいのか、全く看護業務を実践していない相手がいかに楽しく仕事できるか、学生の頃とのギャップをどう埋められるのか、どうやったら早く看護の知識・業務を習得できるか、といろいろ考

えました。

1つは、予習復習も大切ですが、私はとにかく一緒に業務を体験させました。教科書を見てもすぐ忘れてピンと来なかったりすることがありますが、実際に体験してみると、やったことが記憶に残ります。体験した後から振り返ると、今まで理解できなかったことがとてもよく理解できると思うのです。

2つ目は、話をよく聞き一方的に叱らない、良いことは褒め悪いことは注意するようにしています。人間やはり褒められると気分がよくなり自信が持てるようになります。怒られてばかりいるとやる気を失くします。プリセプターとして係わっていると子育てと共通する点があり、私自身とても勉強になります。

3つ目は、プリセプティ自身をよく知ることも大切です。相手がどのようなタイプの人か、それによって接し方もかわってきます。

半年たった今、プリセプティの成長ぶりに驚いています。私自身プリセプティと共に学ぶことが多々あります。プリセプティは「面白い、ここに就職してよかった」と言ってくれます。周りのスタッフも協力してくれます。プリセプターをさせてもらい、まだ課題もありますが少しは役割を果たせているようでよかったと思っています。

II-9. プリセプターとしてのかかわりを通して

三条総合病院看護部；看護師

藤本小夜子

プリセプターとして任命され、今年の4月で丸1年。ようやく自分の仕事がこなせるようになってきた3年目にふってわいた大役に、手探りながらも奮闘し、気がつくとも、本当にあつという間にすぎたプリセプター任期でした。

プリセプティと関わったさまざまな局面で、多くの事を学び、自分なりの成長を得ることができましたが、その中でも観察視野の広がりが一番の成長だった様に思います。

4月からプリセプティと一緒に業務にあたり、最初はとにかく日常の仕事を覚えてもらわなくてはならない、と単なる技術指導に終始していました。

徐々にマンツーマンでなくても良いようになると、プリセプティの動き方や業務の進み具合を、自分あるいは周囲のスタッフと相対的にみて、遅れている部分は早めにフォローできるように・・・と観察することを心掛けるようにしました。それは、プリセプティが業務的に独り立ちできるようにしてからも続けており、いつしか、プリセプティ以外のスタッフも同じ視点で観察するようになりました。

その人がその日、担当している患者の状態や処置のない様、全体業務量、他のメンバーの業務と比べた時の進み具合はどうだろう？・・・など。

それまではどちらかというと、同じ〔観察〕でも技術方法のみに注視し、自分の方法と比べるといった狭い視野でしか観察ができていませんでした。同時期に3年目のリーダー研修を受け、リーダー業務に携わるようになったことも少なからず関係しているのですが、プリセプティと一緒に時間を過ごしたからこそ得られた視点とします。

また看護技術ひとつひとつに対しても改めて学び直すことができ、今後も専門職として継続した学習をしていくにはどうすべきか、考える良い機会となりました。

なにより、プリセプティの一所懸命な業務への取り組み、患者さんへの真摯な対応に、自分の看護の仕事に携わろうと思った初心を思い出すと共に、目を見張る成長ぶりには喜びと刺激を受け続けています。今後も、まだ経験していない字術や、新しく導入されるだろう理論に積極的に取り組み、後輩との関わりを大切にしていきたいと思っています。

そして、このようなすばらしい機会を与えて下さり、1年間、陰に日向にプリセプティ・プリセプター双方をサポートして下さったスタッフの皆様に感謝いたします。

II-10. 新人看護師の現任教育について —プリセプターとしてのかかわりを通して—

村上総合病院看護部；看護師

小山沙登美

新人看護師は、患者様やスタッフとの関わり、初めて実施する看護技術、様々な疾患に対する看護など、多くの不安を抱えながら働いています。そして様々な体験をし、一つ一つ自分のものにしていけるように日々頑張っています。そのため、プリセプターは多くの不安を抱えている新人看護師の相談相手であり、看護技術や日常業務を教えたりする指導者でなければなりません。

新人看護師は、自分の想像していた看護師の仕事と実際の仕事との違いに悩んだり、看護技術が出来ないことで悩むことがあります。これらの悩みは、様々なことを経験し、実施していけば解決すると思います。しかし、スタッフとの人間関係がうまくいかず、悩み、仕事をやめようとしてまで考えている新人看護師を、勇気

づけ、頑張る仕事に来て働いてもらえるようにするのはとても難しいことです。人間関係がうまくいかない理由が、新人看護師の性格にあるとなるとなれば大変です。看護師の仕事に関わらず、社会に出れば様々な人と知り合い、苦手な人も関わっていかねばなりません。看護の仕事は他の職業とは違い一人では出来ないため、スタッフとの人間関係が重要となります。プリセプターが新人看護師とスタッフとの間に立ち、人間関係がうまくいくように働きかける必要がありますが、勤務の関係で出来ないことも多くあります。そのため、チームや病棟全体で人間関係がうまくいくように、協力を求めることもプリセプターの重要な役割だと考えます。プリセプターも、日々自分の指導が正しいのか、新人看護師を傷つけないように、意

欲を失わないように注意するにはどうしたらいいのか悩んでいます。そのため、約2ヶ月に1度行われるプリセプター会議で意見交換をしたり、情報を共有する場があることはとても助かっています。また、新人

看護師の指導を一人で背負わず、チームや病棟全体で教育できるようにスタッフに協力を求めたり、相談に乗ってもらい、新人看護師が不安なく、楽しく働けるようにこれからも頑張っていきたいと思っています。

II-11. 新人とのかかわりを通しての自己の学び

佐渡総合病院看護部；看護師

菊池 仁美

看護師となり今年で5年目となりますが、常に新人の頃の気持ちを大切に日々看護に携わっています。新人の頃、先輩に支えられながら何度も壁を乗り越えた事を思い出します。その先輩の支えや自分自身の頑張りが今でも私の原動力になっています。

今年度、初めてプリセプターとなり、「新人の気持ちを理解し、リアリティーショックを与えないよう関わっていこう。看護師になって良かったと思えるような関わりをしよう」と思いました。初めの頃は、慣れない環境で体的にも精神的にも大変な時期と思い、新人からの質問に対しすぐ答えを教え、自分で考えなくても問題を解決できるよう関わっていました。しかし、2ヵ月経過した頃、薬の学習をしてもらうよう指導しましたが、確認するたびに「すみません、調べていません」という返事が返ってきました。なぜ自己学習ができないかと考えた時、新人だけでなく、1つ1つの行動に手を出していたプリセプターである私の関わり方が新人の自主性を欠く事になっている事に気がつきました。他のプリセプターが関わっている新人がどんどん成長しているように見えて不安と焦りが増

していき自分の力の無さに苛立つばかりでした。そんな時、師長から「コーチング」というコミュニケーションスキルを教えていただきました。コーチングとは、対象者の自発的行動を促すと共に最大限のやる気を引き出し、最善の努力をすることをサポートし、勇気づけるコミュニケーションスキルです。コーチングを学び改めてプリセプターとしての役割を明確にする事ができ、新人との関わり方に対し方向性を見出せるようになりました。

プリセプターとして半年が経過した今、私自身がコーチングというコミュニケーションスキルをより深く学習し、それを新人指導に活用することにより、新人の意向を尊重しながら自主性の成長を支えていきたいと思っています。又、私も共に成長していきたいと考えています。プリセプターという役割を与えていただき、日々の新人への関わりを通して私も自己を振り返り、看護についての考えを見直す機会となりました。他のプリセプターとも連携を取りながら、残されたプリセプターとして期間を有意義に過ごしていきたいと思っています。